

PRAEVIDENTIA DAILY (10月23日)

昨日までの世界：ユーロ安材料が続く

昨日は、前日に続きユーロ圏関連の悪材料が流れユーロが下落したほか、米 CPI 前年比が低下しなかったことを受けてドル買いとなった。欧州時間入りにかけて、26日公表予定のユーロ圏銀行のストレステストで11行が不合格になるとの観測記事が流れると、ユーロ/ドルは1.27ドル台前半から1.26ドル台へ下落、その後NY時間には米CPIがコア前年比は+1.7%と前月および市場予想通りだったが、総合CPIが+1.7%と予想を上回り前月と同じ伸びとなり、鈍化しなかったことを受けて米中長期債利回りの上昇と共にドルが買われる展開となり、ユーロ/ドルは一時1.2635ドルへ続落した。

ドル/円も、欧州時間にかけて概ね107円割れの水準で横ばいの後、米CPI発表を受けて一時107.38円へ上昇したが、引けにかけて米株価と米中長期債が反落すると、ドル/円も小反落した。

カナダドルは、カナダ小売売上高が総合、除く自動車共に前月比-0.3%と予想外のマイナスとなったことから対米ドルで1.12ドル台前半から一時1.13ドル丁度手前まで下落したが、その後カナダ中銀金融政策決定後の声明文で、これまでの中立姿勢を示す文言が削除されたほか（但し10月15日にPoloz総裁が既にフォワードガイダンスの必要性について懐疑的な見方を示しており、削除は時間の問題ではあった）、家計に関する金融安定上のリスクが高まっていると指摘、更に四半期金融政策報告における経済予測で、インフレ見通しが引き上げられたこと（今年3Qから来年2Qにかけて、前年比インフレ率予測が前回から0.2-0.3%ポイント引上げ）もあって、全体としてタカ派的な内容と受け止められ、カナダドルが反発、一時1.12ドル台を下回った。カナダ議会での発砲事件のカナダドルへの影響はあまりなかったようだ。

豪ドルは、豪3QCPIで一部コア指標（刈込平均）が前年比+2.5%と予想以上に低下したが（総合+2.3%、加重中央値+2.6%は市場予想通り）、殆ど反応はみられず、その後欧米時間も概ね横ばい圏内で推移した。

他方、本日早朝に発表されたNZ3QCPIは前年比+1.0%と前期（+1.6%）および市場予想（+1.3%）を大きく下回り、RBNZのインフレ目標レンジ（1-3%）の下限に達したことから、利上げ再開は当分先との見方に繋がり、NZドルは0.78ドル台へ大きく下落している。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	+0.2	+0.00	+0.01	+0.00	+0.01	+0.01	+0.01	-0.7	+2.6	-3.3	-1.8
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独格差
ユーロ/ドル	-0.5	-0.00	+0.00	+0.01	-0.02	-0.01	+0.01	+0.7	-0.7	-1.8	-0.00
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	-0.4	+0.01	+0.02	+0.01	+0.03	+0.04	+0.01	+0.4	-0.7		
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
豪ドル/米ドル	-0.0	+0.01	+0.02	+0.01	+0.03	+0.04	+0.01	-0.7	-0.6	-1.0	
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
NZドル/米ドル	-0.4	-0.02	-0.01	+0.01	+0.01	+0.02	+0.01	-0.7	-0.6	-1.0	
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB	
米ドル/加ドル	+0.2	+0.00	+0.01	+0.01	+0.02	+0.01	-0.01	-0.7	-3.3	-1.0	

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。

(出所) トムソン・ロイター、プレビデントティア・ストラテジー

きょうの高慢な偏見：ユーロ続落を阻むものは？

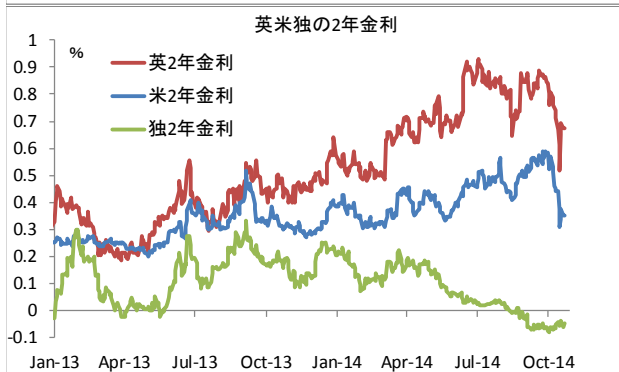
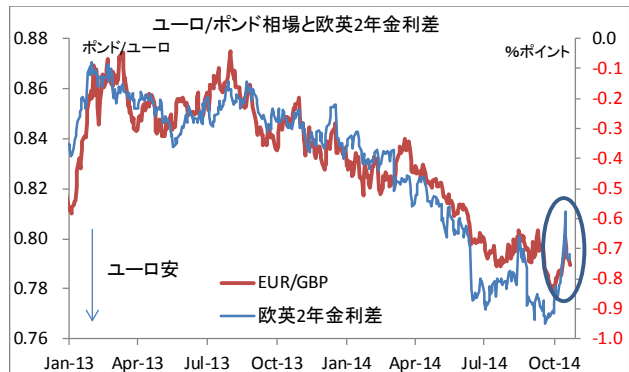
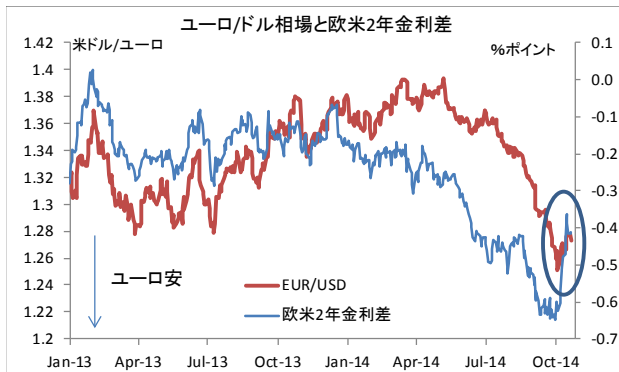
きょうの注目通貨：EUR（↓）

きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
中国 10 月 HSBC 製造業 PMI 速報	10 : 45	50.5		
フランス 10 月製造業 PMI	16 : 00	48.8	48.5	
ドイツ 10 月製造業 PMI	16 : 30	50.3	49.5	
ユーロ圏 10 月製造業 PMI	17 : 00	50.5	49.9	
ユーロ圏 10 月コンポジット PMI	17 : 00	52.3	51.7	
英 9 月小売売上高・前月比	17 : 30	+0.4%	-0.1%	
同除く燃料前月比		+0.2%	-0.2%	
米新規失業保険申請件数	21 : 30	26.4 万件	28.2 万件	
米 8 月 FHFA 住宅価格・前年比	22 : 00	+4.4%		
米 9 月景気先行指数	23 : 00	+0.2%	+0.6%	
Stevens・RBA 総裁発言	6 : 00			

（出所）トムソン・ロイター等を基にプレビデンティア・ストラテジー作成

本日は世界景気減速懸念の震源地の一つであるユーロ圏の PMI がどの程度悪化するかが注目される。予想以上に悪化すれば、ECB による早期量的緩和開始期待に繋がりユーロ続落、というのがメインシナリオだ。但し、ユーロの対ドル、対ポンドの動きを 2 年金利差との関係からみると、目先のユーロ下落余地はあまり大きくなさそうにも見える。ユーロ/ドルは 10 月入り後の米金利の大幅反落により、これまで金利差に出遅れていた状態から、現在はほぼ金利差が示唆する水準となっている（下図を参照）。更なる下押しには、ユーロ圏（ドイツ）金利のこれ以上の低下が難しい中で、米国の利上げ期待が高まり金利が上昇することが必要ということになるが、これは年内は難しそうだ。他方、ユーロ/ポンドの方が 2 年金利差との連動性が高く、現在は金利差が示唆する水準となっているが、方向性としては英国の 2 年金利が持ち直しつつあることから、英国要因主導でユーロ安ポンド高はあり得そうだ（下図を参照）。いずれにせよ、ドイツ 2 年債利回りが既にマイナスとなっており、更なる大幅低下が不可能な状況になっていることが、ユーロ側の要因主導でユーロが下落しにくくなっている背景にあるとみられる。

ドル/円は、ユーロ圏景気の更なる悪化が米国の利上げ開始遅延期待の高まりを通じて下押し圧力となりそう。昨日は 107 円台を回復したが、年内は 106 円前後での不安定な状況が続くそう。



ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいますようお願い申し上げます。

当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。

当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社
金融商品取引業者（投資助言・代理業）関東財務局長（金商）第 2733 号
一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641